

★シラバス(学習の手引き)★

令和 5 年度版

Abashiri Keiyo High School

教科	商業	学科	商業科/事務情報科	学年	1	年	必履修ではない
科目	簿記			単位数	4	単位	
使用教科書	高校簿記(実教出版)			副教材	最新段階式簿記検定問題集 改訂版 全商3級(実教出版)		

学校教育目標	高い志を立て、自己を練磨し、社会に貢献する人間の育成(立志・練磨)							
育成を目指す 資質・能力	基礎的学力	◎	協働力	○	論理的思考力	◎	傾聴力	○
	表現力	○	判断力	○	考察力	◎	情報活用能力	○
	基礎的読解力	○	創造力		洞察力		継続力	◎
	自己管理能力		共感力		自己実現力		復元力(折れない心)	自己肯定感
学習の到達目標	・簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。 ・企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 ・全商簿記実務検定2級取得を目指す							

★評価規準	A:十分満足できる	B:概ね満足できる(基準)	C:努力を要する
★単元ごとの評価規準 1編簿記の基礎 2編取引の記帳と決算 ★4月～6月下旬までの学習内容			
①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度			
簿記の原理に関する知識、技術などを基盤として、取引を記録することと決算の意義について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用する。また、企業会計に関する法規と基準を実務に適用し、適正な会計帳簿の作成について、組織の一員としての役割を果たす力を身に付けている。	簿記の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用する。また、企業会計に関する法規と基準を実務に適用し、適正な会計帳簿の作成について、組織の一員として協働的な取り組みを探求し、表現している。	企業会計に関する法規と基準を実務に適用し、適正な会計帳簿の作成について、組織の一員として探究しようとしている。	
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習	★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習	★何で評価するか ・課題の提出 ・考査前後の振り返りシート	・

【学習計画】

月	単元	学習の目標(評価の観点:評価方法)
4	第1章企業の簿記 第2章簿記の要素 第3章取引と勘定	企業の簿記は、どのような役割や種類があるのか。また、簿記の基礎を学習する 貸借対照表・損益計算書を学習し、作成する。 取引をどのように記録・計算・整理し、取引や勘定の意味を学習する。 小テスト 課題提出
5	第8章現金預金の記帳 第9章商品売買の記帳 第10章掛け取引の記帳	簿記上の現金預金について学習する(現金・現金過不足・当座預金・小口現金) 3分法による商品売買の記入法、仕入帳、売上帳、商品有高帳を学習し、作成する。 掛け代金や回収不能になった場合の処理について学習し、各種元帳作成する。 小テスト 課題提出
6	第11章固定資産の記帳 第12章決算(その1)	固定資産の購入、売却の記帳や固定資産台帳の記入法について学習する。 決算整理にともなう決算手続きを学習し、決算手続き、精算書、損益計算書、貸借対照表を作成する。 前期中間考査 小テスト、課題提出

★単元ごとの評価規準 3編取引の記帳決算/4編帳簿伝票記帳の効率化 ★7月上旬～9月下旬までの学習内容	自己評価	実際評価
①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度		観点
決算整理など決算に関する知識、技術などを基盤として、企業会計に関する法規と基準を実務に適用し、適正な決算整理と財務諸表の作成する技能を身に付けている。		① ② ③ ① ② ③
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習		観点
・定期考査 ・小テスト ・課題学習		
7	第13章手形取引の記帳 第14章その他債権・債務の記帳 第15章販売費及び一般管理費の記帳	商品の代金決済に手形を用いられる場合、どのような勘定に記入し、どう処理するか学習する。 企業の取引で発生する債権・債務をどのように記帳するか学習する。 企業が営業活動を行うために生じる費用の記帳について学習する。 小テスト 課題提出

8	第16章資本金の記帳 第17章決算(その2) 第18章帳簿	個人企業の資本の増減には、開業のときの出資や期末の純損益の計上について学習する。 受取手形に対する貸倒の見積もり、費用、収益の修正などの決算整理について学習する。 帳簿の種類や役割や業務分担や帳簿組織に関する法規を学習する。 小テスト 課題提出
9	第19章仕訳伝票と3伝票 第20章会計ソフトウェア	仕訳帳のかわりに伝票を用いた場合の処理について学習する。 取引の記帳に会計ソフトウェアを用いる場合に、どう処理するか学習する。 前期中間検査 小テスト 課題提出

★単元ごとの評価規準 5編取引の記帳と決算//6編本支店の会計 ★10月上旬~3月下旬までの学習内容			自己評価	実際評価				
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	観点	観点				
			①	②	③	①	②	③
伝票の利用など記帳の効率化に関する知識、技術などを基盤として、企業会計に関する法規と基準を実務に適用し、伝票の利用と会計ソフトウェアの効果的な活用について、組織の一員としての役割を果たすに関する技能を身に付けています。			企業会計に関する法規と基準を実務に適用し、伝票の利用と会計ソフトウェアの効果的に考察し、表現している。			企業会計に関する法規と基準を実務に適用し、伝票の利用と会計ソフトウェアの効果的に探究しようとしている。		
★何で評価するか	★何で評価するか	★何で評価するか						
・定期検査 ・小テスト ・課題学習	・定期検査 ・小テスト ・課題学習	・課題の提出 ・検査前後の振り返りシート ・						
10	第21章有価証券とその他の手形の取引の記帳 第22章決算(その3) 第23章支店の取引 第24章本支店の財務諸表の合併	企業が売買目的で買い入れた株式、社債の処理について学習する。 商品に関する整理、貸し倒れの見積もり、減価償却などについて学習する。 企業の支店を設けた場合に、本店支店間の取引の記帳について学習する。 本店支店それぞれの財政状態や経営成績を正しく知るためにどうしたらよいか学習する。 小テスト 課題提出						
11	第25章設立と開業の記帳 第26章余剰金の処分に関する記帳 第27章株式会社の税金の記帳 全商簿記実務検定2級必要範囲	株式会社の設立や開業のときの処理について学習する。 株式会社の純利益をどのように計上するのか学習する。 個人企業の税金(法人税)について学習する。 後期期末検査 小テスト、課題提出						
12	全商簿記実務検定2級必要範囲	全商簿記実務検定2級に必要な範囲を学習する。 小テスト 課題提出						
1	全商簿記実務検定2級必要範囲	全商簿記実務検定2級に必要な範囲を学習する。 小テスト 課題提出						
2	財務会計 I 範囲 第3章株式会社の設立・開業と株式の発行 第4章当期純損益の計上と余剰金の配当・処分	株式会社の設立・開業時の費用について学習する。 株式会社の当期純損益を繰越利益剰余金勘定への振り替えを学習する。 小テスト 課題提出						
3	財務会計 I 範囲 第5章社債 第6章株式会社の税務	株式会社の資金調達の方法(株式、社債)について学習する。 株式会社の納税義務について学習する。 小テスト 課題提出						

★最終評価総括(自己評価／実際評価)

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	自己評価総括		実際評価総括
①	②	③	①	②	③

◎前期振り返り	◎後期振り返り	▶備考
.....	
.....	
.....	
.....	